

チェルノブイリ救援・中部の活動と ウクライナ

NPO法人チェルノブイリ救援・中部

河田昌東（かわたまさはる）

今年、2025年は

チェルノブイリ原発事故から39年

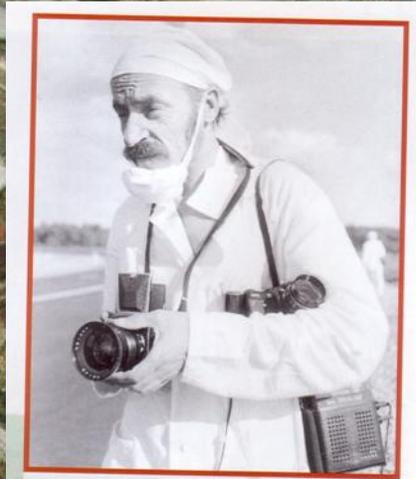
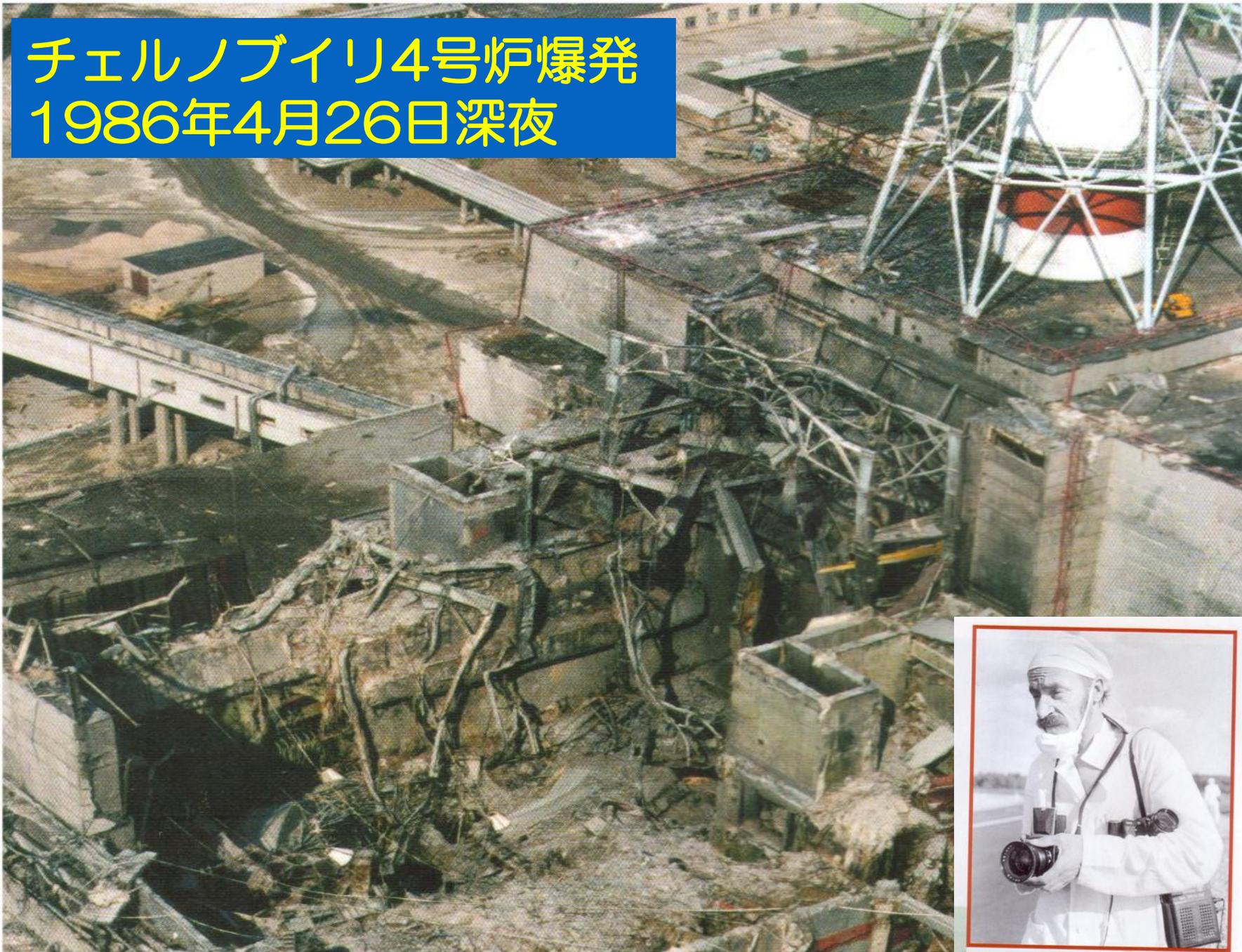
福島原発事故から14年

ロシアのウクライナ侵攻から3年

NPO法人チェルノブイリ救援・中部の紹介

- 1986年4月26日 チェルノブイリ原発事故
- 1990年4月 チェルノブイリ救援・中部発足
- 1990年8月 日本のNGOで初めて現地を訪問
(対象はウクライナ共和国ジトーミル州)

チェルノブイリ4号炉爆発
1986年4月26日深夜



Цей світ він любив щиро, захоплено і по-дитячому

原子炉の核暴走

ウクライナは日本から8000Km



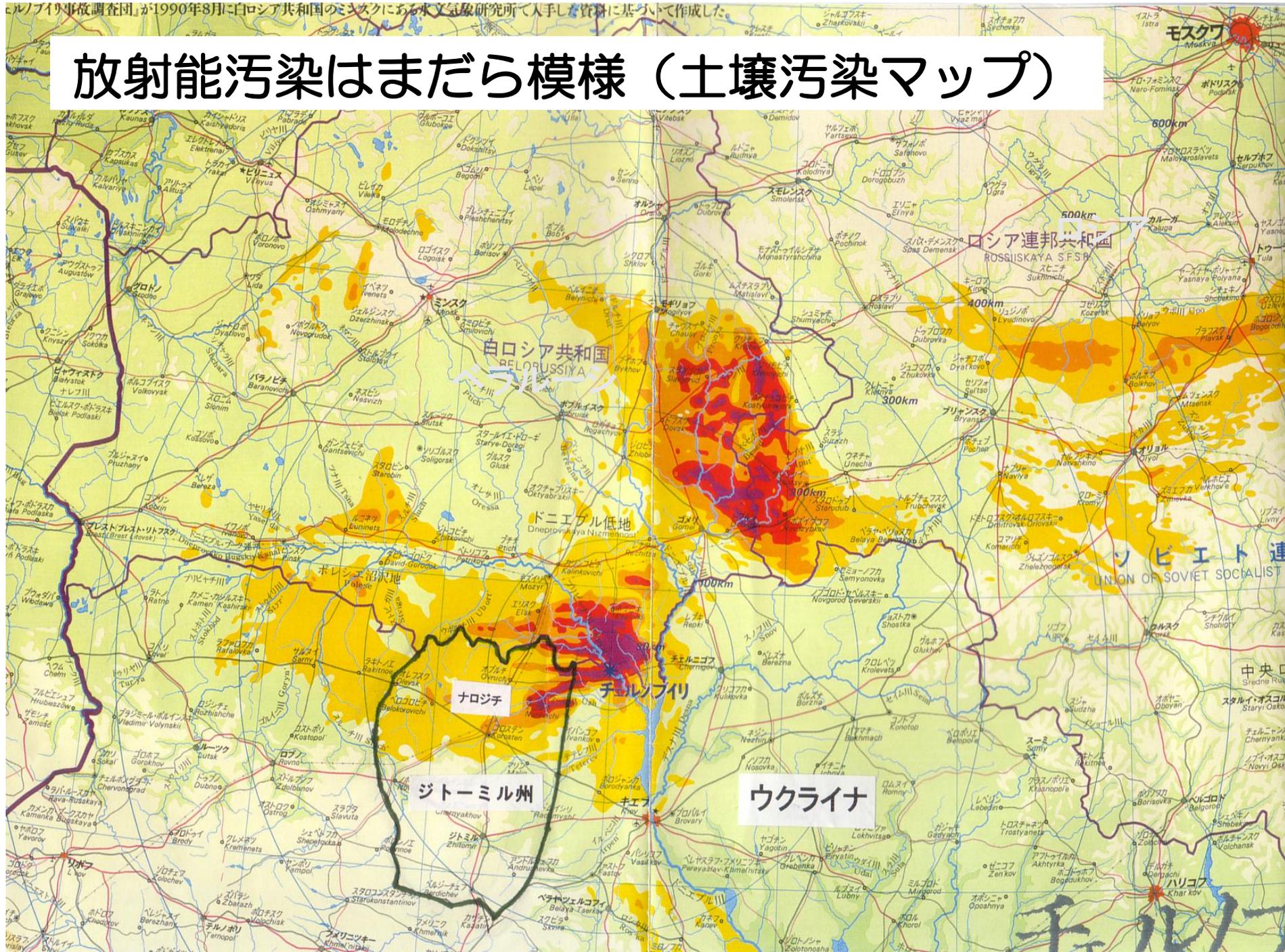
ウクライナ共和国
ジトーミル州で活動開始



ジトーミル州は岐阜県と
長野県を合わせた面積

チェルノブイリ事故調査団が1990年8月に白ロシア共和国のミンスクにある水文学気象研究所で入手した資料に基づいて作成した。

放射能汚染はまだら模様（土壌汚染マップ）



ジトーミル州は半分が汚染地域

ナロジチ

ジトーミル州

チェルノブイリ

ウクライナ

チェルノブイリ

初めてのウクライナ訪問

1990年8月(日本の市民団体で最初の現地訪問)



チェルノブイリ救援中部の活動要約

- 被災地の病院を支援（医薬品・医療機器）
- 子ども達に粉ミルクを援助
- 事故処理作業者に医薬品や車椅子の援助
- 子ども達に奨学金
- 子ども達にクリスマスカードを送る
- 2007年～ 汚染地域再生「菜の花PJ」
- 2011年4月～ 福島県南相馬市で活動
- 2022年5月～ウクライナの戦争被害者の支援



内臓が露出して生まれた子ども

人工呼吸器で生きる子ども





ジトーミル州立小児病院

救援物資でICU設立



サナトリウムで原爆展 (1)



2025/1/31

活動

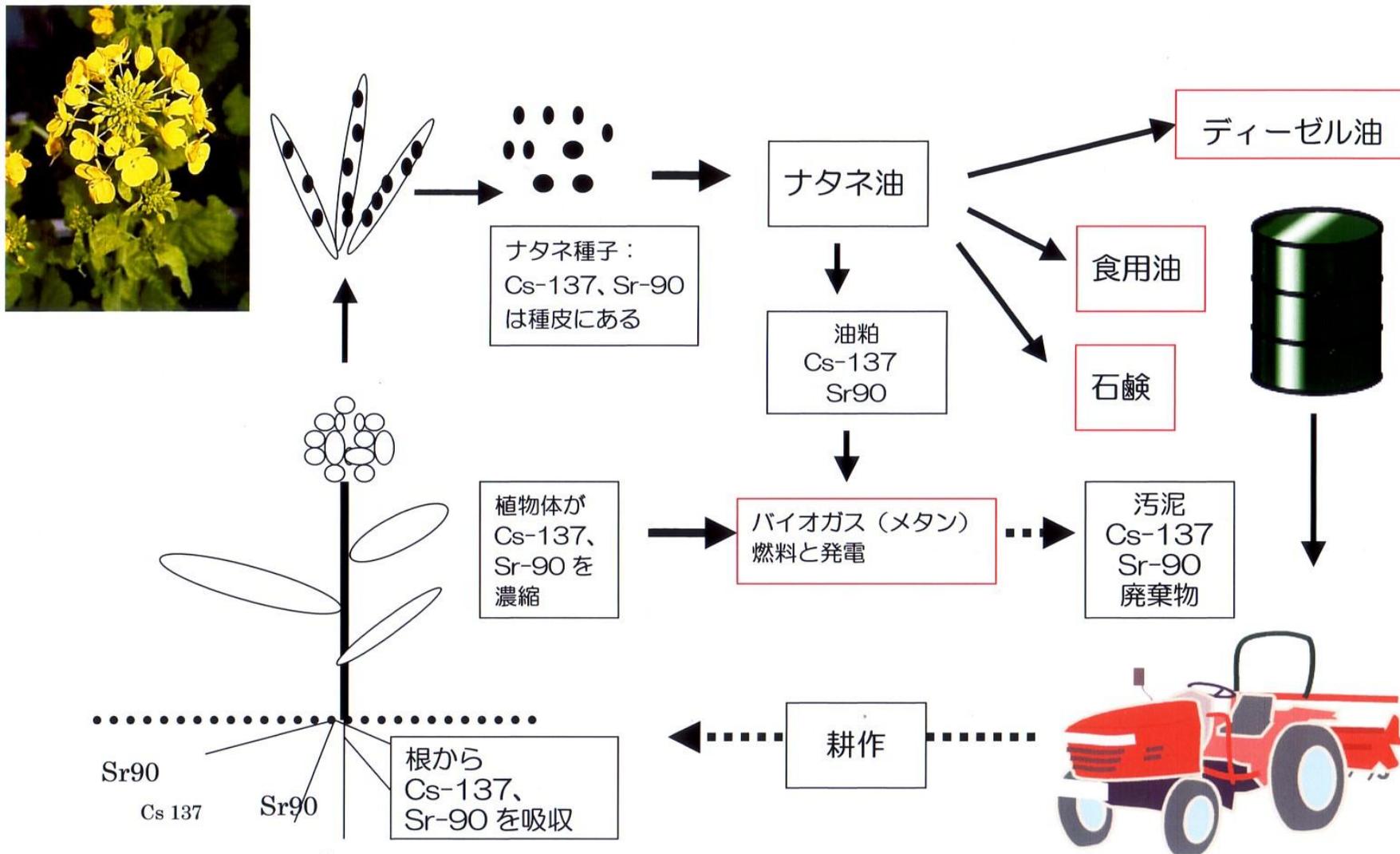
希望の菜の花をチェルノブイリにとどけよう

NPO法人チェルノブイリ救援・中部

- 汚染した大地から菜の花が放射能を取り除きます
- ナタネ油はバイオディーゼル油に転換、トラクター等に利用します
- ナタネの葉、茎、根などからバイオガスを作り燃料や発電に利用します
- 放射能を含む汚泥は低レベル廃棄物として厳重に管理します
- 持続可能なバイオエネルギーで地球温暖化防止にも貢献します

2007年からナロジチ地区で開始
汚染地域における農業と
バイオエネルギー生産

ナタネによる土壌浄化 と バイオエネルギー生産（概念図）



福島の人々とともに
チエルノブイリ30年記念式典
に参加（2016年4月）



原発事故で亡くなった
人々の追悼集会に参加



翌日、チエルノブイリ
避難者の村を訪問



子どもたちが「上を向いて歩こう」「ふるさと」
を歌って歓迎してくれた



ロシア軍が
“攻撃開始”

速報

2022年2月24日 NHK ニュース速報



ロシアは当初
首都キーウ
攻略を目指し、
3方向から侵攻

- ロシア軍は侵攻初日（2月24日）からチェルノブイリ原発を占拠
- 211名の原発職員は幽閉され、交代勤務は禁止された
- キエフ攻略の拠点にした（車で3時間）
- キエフ、ジトーミルの各地を爆撃

毎日5〜600台の
戦車等が走り回った



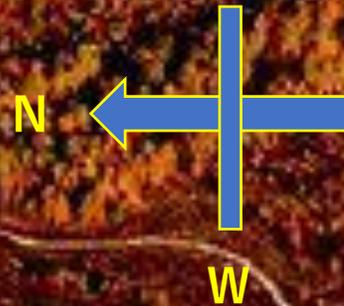
チェルノブイリ周辺は舞い上がる粉塵で放射線量は300倍以上に上昇
(毎時 65 マイクロシーベルト：通常は0.2マイクロシーベルト以下)

チェルノブイリで

ロシア兵士も被曝した



チェルノブイリ原発



ロシア軍（4千名）は「赤い森」に
塹壕を掘り一か月滞在
大量被ばくした可能性

原発の西側2Kmにある赤い森

赤い森の中の2か所に塹壕作成



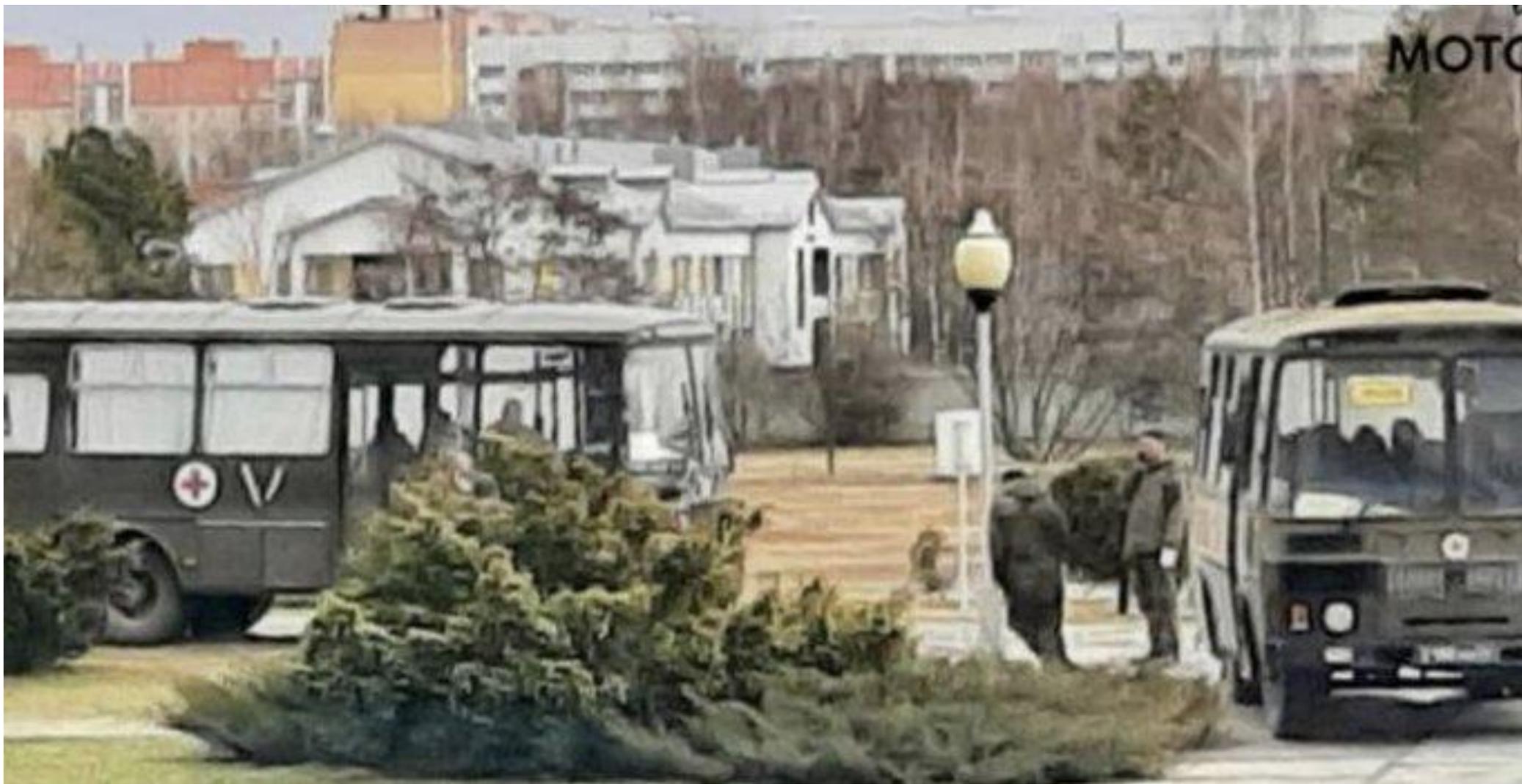
© Twitter / IntelDoge

ロシア兵は汚染した土壌の粉塵を吸い、
汚染した木を燃やして暖を取り、食事をとり眠った。
大量の外部被曝と内部被曝の可能性

3月30日、撤退の前日
被曝兵士を載せた7台のバスが
ベラルーシに向かった
(約400名)



チェルノブイリ原発の職員が撮った動画



被曝兵士の状況は今も不明

ベラルーシ（ゴメリ）にある
国立放射線医学と人間生態学のための診療所で治療？
残りの兵士は東部戦線に再配置された

11月25日 毎日新聞

ロシアは発電所、変電所、水道などのインフラを集中攻撃中

ゼレンスキ氏 インフラ攻撃批

ロシアがウクライナ侵攻を開始してから24日で9カ月。本格的な冬の入り口にさしかかる中、ロシア軍はウクライナの電力インフラを集中的に攻撃し続けている。ウクライナ国民の戦意をくじこうとする奇襲的な戦術とみられるが、前線の露軍自体は相次いで占領地域を失うなど苦戦。露国内でプーチン大統領や軍の威厳は低下し、私兵部隊などの指導者が存在感を増している。一方、侵攻長期化の様相を受け、米国などからは和平協議も視野に入れた外交の動きが出始めている。

かにした。このほかキーウ市内全域での断水が伝えられている。

ウクライナの国営原子力企業「エネルギーアトム」は、電力インフラの損傷を受け、西部のフメリニツキー

とリウネ、南部の原発で緊急保護が作動し、外部電線断されたと発表している。また、ルドバでも大規模

侵攻9カ月

CU クローズアップ

ウクライナ当局は23日、首都キーウ(キエフ)などが露軍の巡航ミサイルによる攻撃を受け、各地で電力インフラなどが破壊された

と発表した。ウクライナの国営電力会社「ウクルエネルゴ」は全土で緊急停電を実施し、インフラの復旧作業を急いでいる。

ウクライナ軍によると、露軍はエネルギー関連施設などを狙い、23日だけで67発のミサイルを発射。うち30発はキーウに向けて発射されたという。モナスティルスキー内相はこの攻撃で10人が死亡したことを明らかにした。



ロシアによるミサイル攻撃を受けた住宅地で活動する救助隊員たち＝キーウ近郊で23日、ロイター



非正規部隊ト

ロシア第2の都市サンクトペテルブルクに今秋、「ワグネルセンター」と呼ばれるガラス張りの高層ビルが完成した。所有するワグネル社は雇い兵の部隊を編成するロシア企業で、ウクライナの前線にも部隊を送っている。これまで同社の活動は公然の秘密だったが、ウクライナ情勢を機に、存在がベールを脱いだ。新社屋ビルの公開もその一環とみられる。

ワグネルの経営者は新興

実業家のプリゴジン、大統領府のキーウ請け負ってきた「プーチン氏のあだ名で知られ014年に創設ネルへの関与をたが、9月下旬営者であると打11月8日の米中ロシアによる16領選への介入にだと認め、慎重外科的に、我々の今後米国の選期化すれば与野党から不満が噴出する可能性もある。

ただし、バイデン政権もウクライナ政府も、ロシア側が和平交渉に真剣に向き合うかについては懐疑的

米模索の和平協議難航

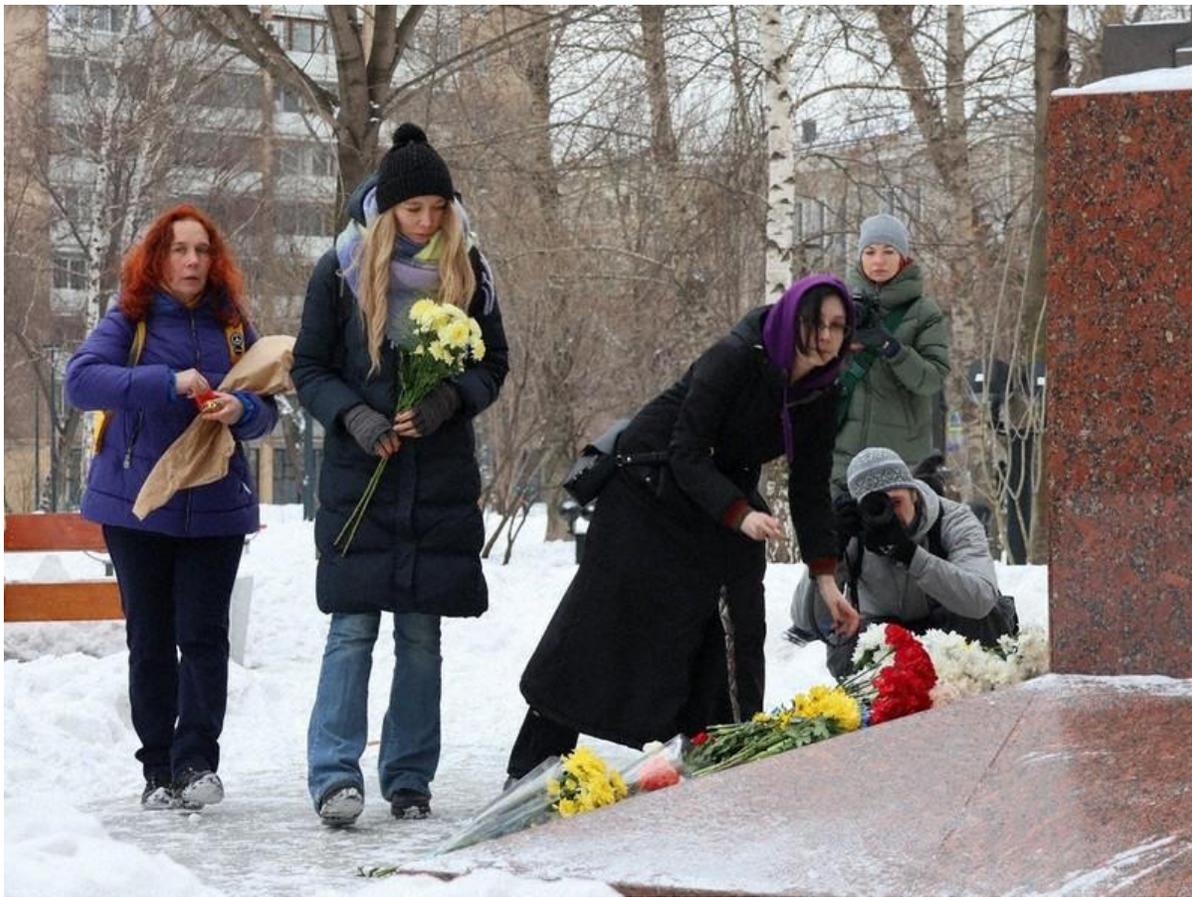
「ロシアもウクライナも完全な軍事的勝利を達成す

向きな姿勢を見せることで、侵攻の経済的影響で「ウ

が主目的とされるが、侵攻の「出口戦略」を探ってい

公の場を避け、ゴジン氏が表舞た背景には、ウ攻で軍の劣勢が持率を下げるプ

首都キーウ



死亡した兵士に花束をささげる市民



チェルノブイリ救援・中部の

ウクライナ緊急支援

1) ロシアによるウクライナ侵攻に対する声明 (2/27)
(日本語、ウクライナ語、ロシア語、英語)

各国大使館、外務省などに送付

2) ウクライナへの緊急支援開始 (3/7)

現地カウンターパート（1990年～）

● NPOチェルノブイリ・ホステージ基金

1986年当時はジトーミル州の地方紙編集部
「ジトーミルスキー・ヴィスニーク」

共にチェルノブイリ被災者の救援活動35年

●チェルノブイリ・ホステージ：チェルノブイリの人質

1/31/2025



イエフゲニア・ドンチェヴァ 事務局長（現在）

昨日（1月30日）名古屋訪問

ウラジーミル・キリチャンスキー
新聞社編集長、2012年に死亡





戦争前のジトミル25番学校
永年支援して来た

成人病院と助産院
も破壊された



2022年3月4日 爆撃されたジトーミル第25番学校



5月11日（ラストベル）

学校に別れを告げる教員・卒業生・保護者ら



2021年12月に
クリスマス・カード
を受け取った

25番学校の
子ども達



25番学校の子ども達
から南相馬市の
幼稚園に送ってきた
クリスマス・カード

外出禁止令中の爆撃で、子どもに被害はなかった



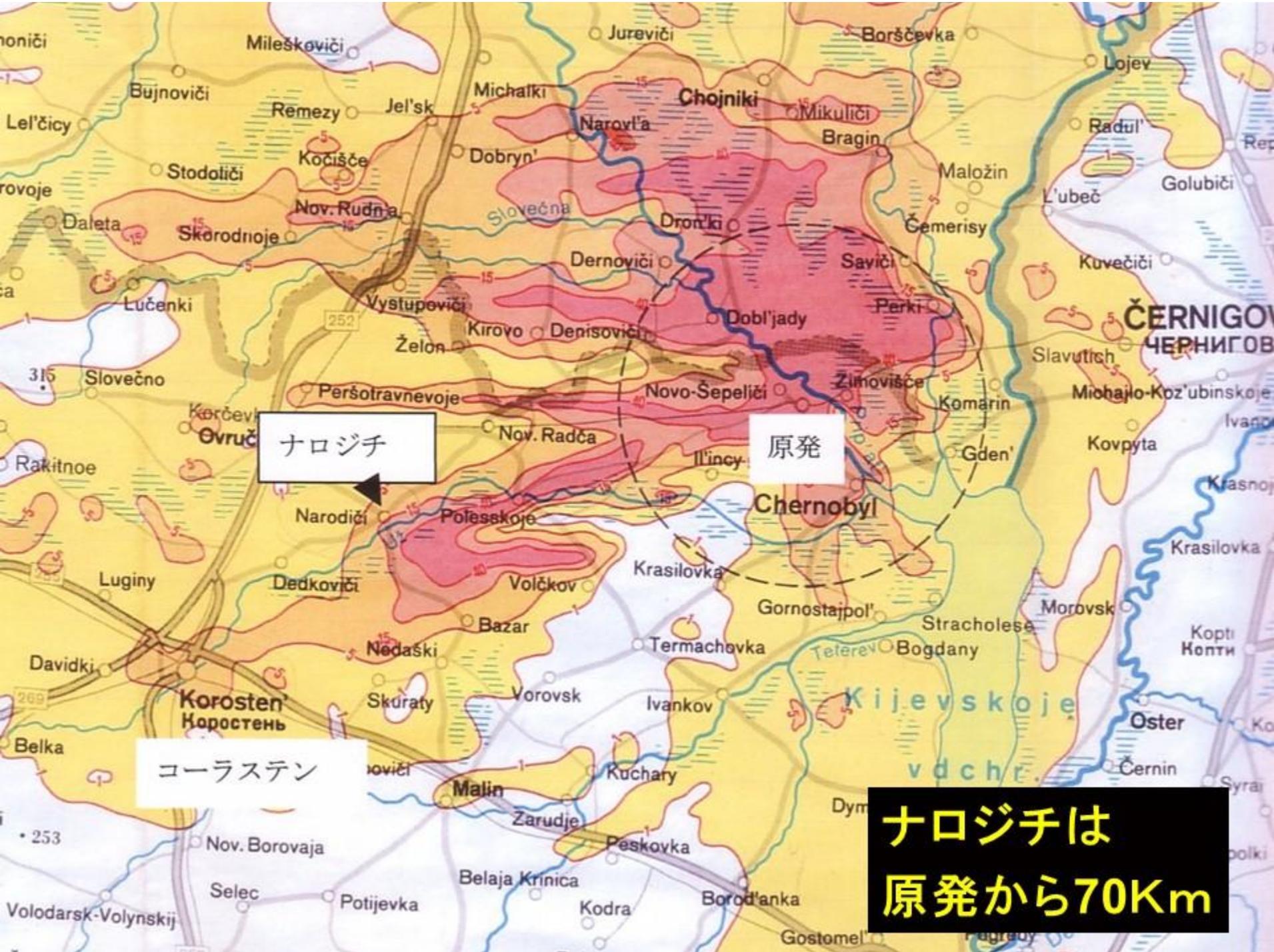
3月1日深夜、自宅を爆撃で破壊された
技術者オレグ・ルパツク（32歳）。
妻のカーチャ（29歳）は爆死

現地ニュースから

生まれたばかりの赤ん坊は奇跡的に助かった。
「瓦礫の中の鳴き声は世界で最も美しい歌声だった」

破壊されたナロジチ地区病院
永年支援して来た病院
チエルノブイリ原発から
西70キロにある





ナロジチ

原発

コーラステン

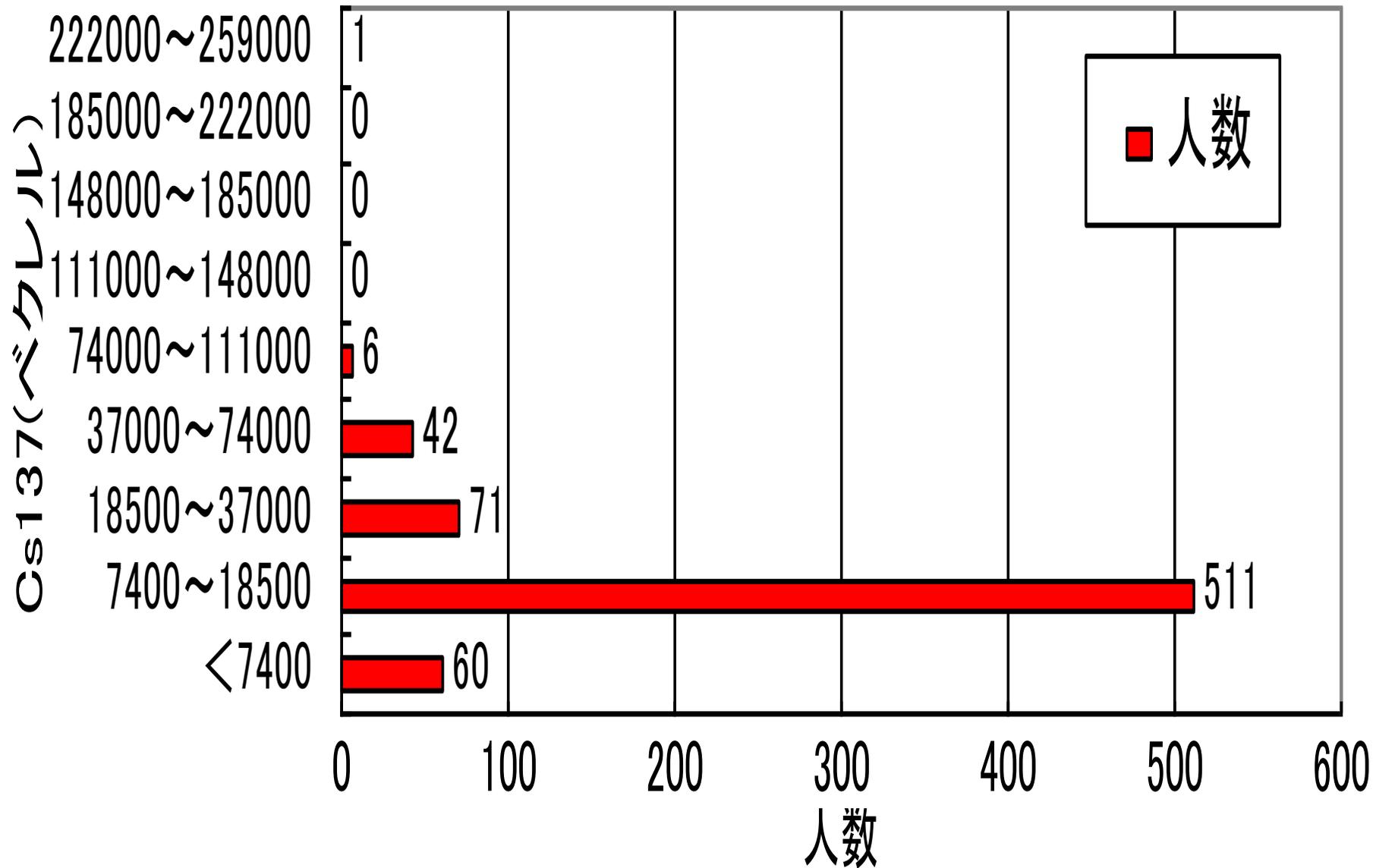
ナロジチは
原発から70Km

汚染地域ナロジチ地区病院

年間に必要な医薬品代の
約半額を支援して来た



ナロジチ地区住民の体内放射能 (2,001年)





チエルノブイリ原発から西70km
ナロジチ地区
強制移住の村（年間5mSv以上）で
強制移住地域、ウクライナ独立後
1万人が残った



ナロジチ地区

ビアジフカ村の教会

160年前に設立

無人の村なのに
いつも掃除が行き届き
野の花が飾られていた

無人の村の住人（移住に応じなかった人）：サマショーロ

アナスタシア・イワーノブナさん
（ナースチャ）



1996年当時（72歳）



無人のナロジチ地区の森の中で、牛と鶏、ミツバチを飼い、畑を耕し暮らしていた

爆撃で破壊された教会



ナースチャが生きつ
いたら・・・

戦争によるジトーミル地域の被害

(22年6月1日現在)

- 1) 民家75棟、寮3棟が完全破壊
- 2) 教育施設、学校76が損壊
- 3) 病院9棟が損壊

現地 Zhytomir Info.による

ニュース (Reuter 2022年11月19日)
ウクライナ首都の電力網「完全停止」の恐れ、国内インフラ半分が停止



電気
暖房
水道
が停止

気温は0℃
以下

現地カウンターパート（1990年～）

● NPOチェルノブイリ・ホステージ基金

1986年当時はジトーミル州の地方紙編集部
「ジトーミルスキー・ヴィスニーク」

共にチェルノブイリ被災者の救援活動35年

11月15日のY.ドンチェヴァさんのメール

昨日は夕方6時から停電、水道も止まりました。今日は朝からまた空襲警報で、州行政庁地下で過ごすことになり、その後事務所に戻りましたが、暖房は入っていませんでした……。

[15日]ミサイルが町はずれの変電所に命中し、消防士たちが何時間も消火作業をしていました。町は真っ暗になり、恐ろしいほどでした……。トロリーバスが止まり、乗り合いバスは数えるほどしか走っていなかったのも、人々は何時間も目的地にたどり着けませんでしたが。そして非常に暗く、数メートル先の人も見えませんでした……。信号は一つ残らず消えてしまい、事故が多数発生しました……。



電力危機のウクライナ、暗闇状態がくっきり NASA衛星写真
11月26日 CNN

ウクライナ緊急支援

- 日本から物資は送れない（～9月）
- 現地カウンターパートと相談
（NPOチェルノブイリ・ホステージ基金）

チェルノブイリ救援・中部



ナロジチ地区病院
(共通の支援対象)



アクション・チェルノブイリ
(ドイツのNGO)

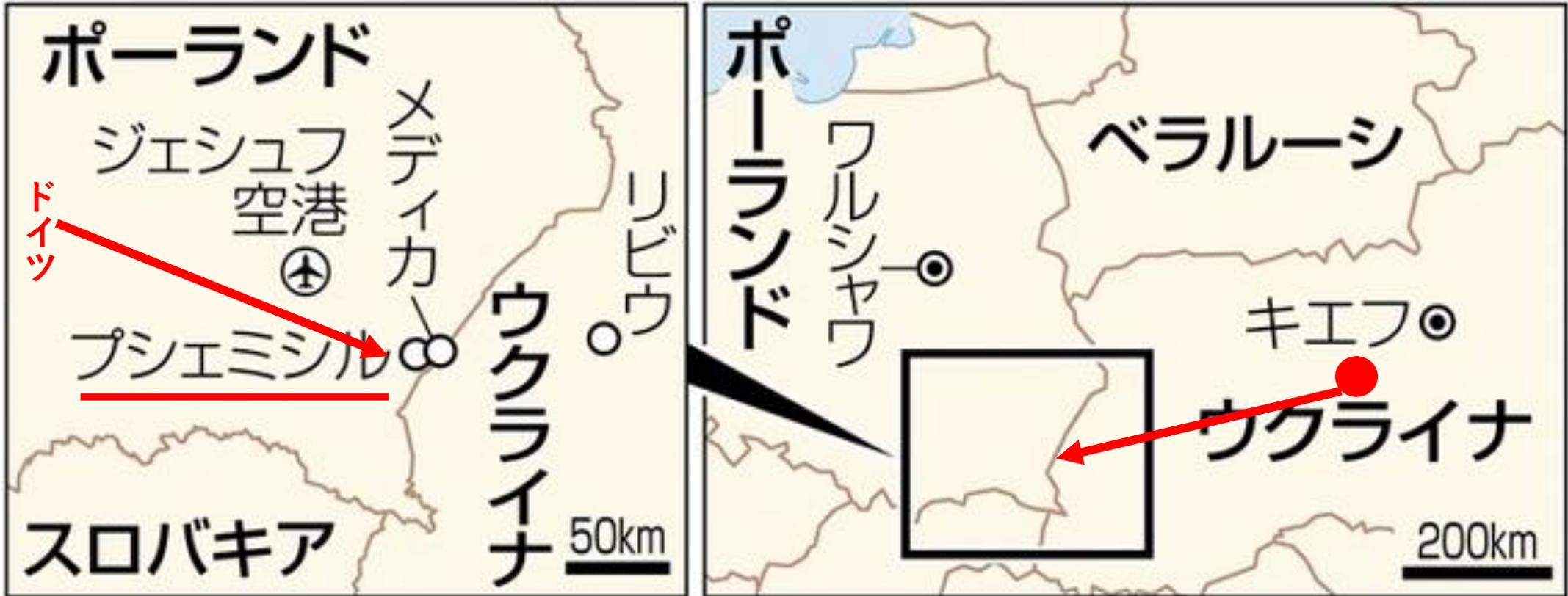
ドイツの反原発団体との
出会い

ウクライナへの緊急支援開始

救援物資の輸送ルート確保

- (1) ウクライナから必要な物資のリストをドイツに送る
- (2) ドイツで購入の見積もりを取り、チェルノブイリ救援・中部（日本）に提示
- (3) 救援・中部がドイツに外貨送金する
- (4) ドイツで物資を調達し、ポーランド国境まで運ぶ
- (5) ジトーミルからポーランド国境まで受け取りに行く
- (6) ジトーミルで病院や被災者団体に配る

合流地点
ポーランドとウクライナの国境地点 プシェミシル



ジトーミルからプシェミシルまでは約600Km

救援物資第一便

- 3月14日 日本からドイツに外貨送金（500万円：宗教法人真如苑から）
事前にウクライナから必要な物資のリストを日本とドイツに連絡
アクション・チェルノブイリがドイツで物資調達
- 3月25日朝 アクション・チェルノブイリが車が出発
ウクライナからも消防士がプシェミシルに出発
夕方 ポーランドのプシェミシル（ウクライナ国境の町）で合流
荷物を受け取る
- 3月26日 ウクライナ（ジトーミル）に荷物が到着
- 3月28日 チェルノブイリ・ホステージ基金が物資を配布開始
4月4日、配布すべて完了

第一便内容

- 医薬品など 144品目
- 除細動器・心電計など6品目
- 粉ミルク

計900Kg, 500万円相当

アクション・チェルノブイリが
ドイツのバイエルンを出発
3月25日 朝8時



ドイツで購入した救援物資
医薬品など





荷物を受け取ったチェルノブイリ・ホステージ基金のスタッフ
左が Y.ドンチェヴァさん、右がH. ハルティナ医師



精神病院小児科 (PTSD対策)



事故処理作業者達への医薬品



ナロジチ病院からは車で取りに来た



第2便はウクライナで調達

4月25日：ウクライナに外貨送金 300万円（23,110ドル）

- 支援対象
 - ① ジトームル第一市民病院
ビリルビン・メーター、光療法ランプ
 - ② バシユク記念市立小児病院
手術用照明器具
 - ③ 非常事態局医療センター
蒸留水製造装置
 - ④ プリピアチ・センター
医薬品

アークスのご支援

2022年度

(1) 3月29日 50万円

ジトームル第一市民病院、バシユク記念市立小児病院、
非常事態省医療センター

●ビリルビン・メーター、光療法ランプ、蒸留水製造装置など

(2) 8月15日 50万円

ジトームル州立医療コンサルテーション診断センター

●酸素濃縮器持続的起動陽圧ユニット、
医療用液体自動ディスペンサー、外科用機器、医薬品など



ジトーミル第一市民病院



蒸留水製造装置
非常事態局医療センター



赤血球の破壊度を調べるピリルビン・
メーター



修復前



修復後

破壊されたナロジチ病院

ナロジチ病院の
レントゲン室の修理



2023年度 (1) 11月24日 50万円

当初はナロジチ地区学校（2校）の給水施設復旧の予定だったが
地区議会で廃校が決まり実施出来なくなった。

代わりに、ナロジチ地区病院の修復、ナロジチ村学校とバザール村学校の教育資材（プ
リンター、音響機器）の変更した。

提供したプリンターと音響機器



プリンターを喜ぶ教師達

音響機器を囲む生徒達



プリンターを喜ぶ子ども達
ホステージ基金の
FACEBOOK 465



プリンターを喜ぶ理由があった
教科書が不足し、コピーしなければならぬ

Y.ドンチェヴァさんの提案（昨日：1月30日）

- (1) 食料などは何とか足りているが、粉ミルクは是非支援してほしい
- (2) 学校（1200校以上）がシェルターを使っている
警報がなれば地下シェルターに潜り、そこで授業を続ける
- (3) 教科書は従来、国が提供し毎年後輩に受け渡し、不足分を国が与えた。
戦争が始まり教科書の供給が間に合わなくなった。
学校ごとに教科書をコピー・印刷して生徒に配布する必要があるが、
印刷機がない学校が多い
- (4) 地下シェルターで授業するが、必要な音響機器やプロジェクターがない
- (5) 冬季は寒いので暖房機器が欲しい
- (6) 子ども達の精神的なトラウマが酷く（PTSD）対策が必要



SHOT ON REDMI 7
AI DUAL CAMERA



SHOT ON REDMI 7
AI DUAL CAMERA

ナロジチ病院に届いた 第3便の医薬品

オブルチ地区病院・産科病棟
に届いた医療用品



第4便ジトーミルに到着（8月26日配布）



クリスマス・カードとホットカイロを受け取った子ども達



ホットカイロを受け取った消防士達
寒さの中で地雷撤去作業を行っている



戦争で破壊されたナロジチ地区の橋の修復事業を支援



病気になっても橋が壊れて病院
に行けないという住民の声

戦時下のウクライナの子ども達の絵画展

2023年10月～全国で開催中

- ジトーミル州の子ども達
- チェルノブイリ原発の地元「プリピャチ」からの避難者の村の団体「未来」の子ども達
- 全部で137点

名古屋市の地下街「セントラル・ギャ
ラリー」で展示（2024年9月）



「平和学習展」

日本の昭和時代の戦争、そして現在世界で起きている戦争。その両方を見つめ「平和」について考える展示を行います。昭和時代の戦争は「戦時下の暮らし」「空襲と原爆」「子どもと戦争」に焦点をあてます。また、現在も続くウクライナとロシアの戦争の一端を知るために、ウクライナの子どもが描いた絵画を展示します。戦争が子どもの心にどんな影響を及ぼすのか、ご覧いただければと思います。



ウクライナの子どもが描いた絵画～戦時下からのメッセージ～

「チェルノブイリ救援・中部」提供

期間 令和7年 1 / 13 (月) ▶ 2 / 4 (火)

会場 山県市歴史民俗資料館 (図書館内)

〒501-2121 山県市大門850-65

開館時間 9:00～16:45 ※最終入館 16:30

休館日 1月14日(火)・20日(月)・27日(月)
2月3日(月)

問合せ 歴史民俗資料館 TEL0581-36-3339



岐阜県山県市民族資料館で展示中





サヴェリー（3歳） 孤児院

114



МАМО!

Я БАЧУ ВІЇНУ

ママ、戦争が見えるよ

114

ヴィターリオヴィッチ (12歳 プレセツカ学校)

パパ、生きて帰ってきてね
マリア（9歳）

ПОВЕРНИСЬ
ЖИВИМ!





死の走り (A.ダリア)

14歳)



爆発の跡の静けさ
N.スベトラーナ (16歳)

120



アナスタシア（プレセツカ学校）



今年度のクリスマス・カード

- ウクライナ宛て： 1377 通
- 福島・南相馬幼稚園など：361 通

ウクライナの現況

- (1) 約2000人の子どもが戦争で死亡（1日平均2名）
- (2) 13歳～15歳の半数が睡眠障害
- (3) 約100万人の子どもが学校での対面授業を受けられない
- (4) ウクライナ軍の死者（約7万人）負傷者（10～12万人）
ロシア軍の死者（12万人）負傷者（17～18万人）
ロイター通信（1月31日）
- (5) 避難民 国内：355万人以上、国外681万人以上
日本への避難民：2100人、愛知県：131人

名古屋市では
日本・ウクライナ文化協会（JUCCA）が避難
民を支援

- 必要な物資：冷蔵庫などの家電製品
暖房器具など
- 手作り商品を販売中
- 昨日、救援・中部と一緒にドンチェヴァさん支援

ウクライナの戦況



時事通信 2025年1月31日

緊急支援から復興支援へ

何時になれば ？